

懷徳堂印－中井竹山編－

懷徳堂第四代学主中井竹山（なかいちくざん）は、その卓越した学識と行動力によって、大阪学問所懷徳堂の黄金期を築きました。老中首座松平定信との会見、それに基づく経世策『草茅危言』（そうぼうきげん）の上呈、徳川家康の一代記『逸史』（いつし）の執筆と献呈、火災により焼失した懷徳堂学舎の再建、懷徳堂諸規定の改訂・整備、中国古典に対する精力的な研究など、竹山は大きな足跡を残しました。

この竹山の世界を、また別の角度から理解するための資料が、懷徳堂文庫に残されています。中井竹山の印章です。

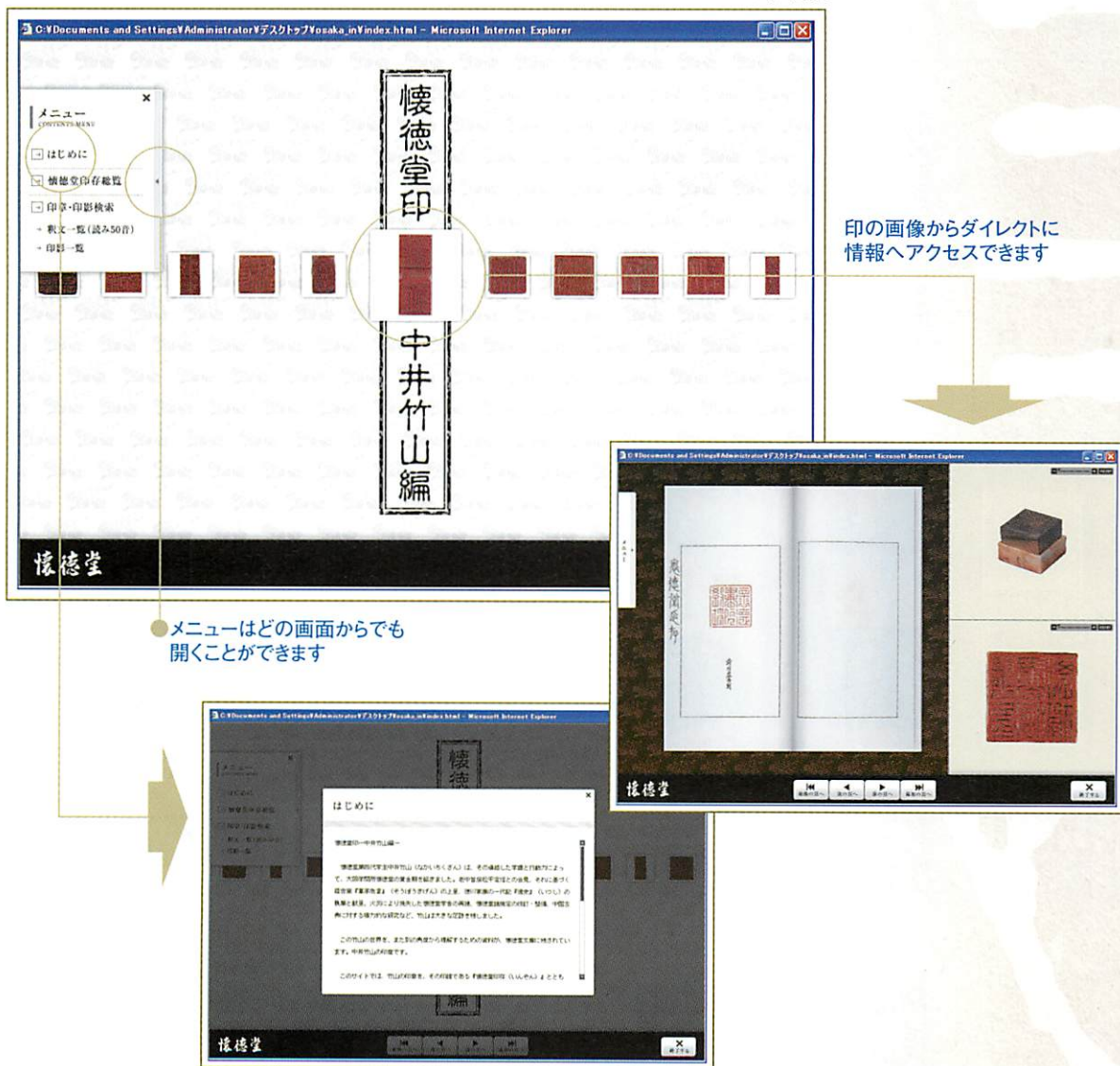
このサイトでは、竹山の印章を、その印譜である『懷徳堂印存（いんぞん）』とともに、データベースとして提示します。

「懷徳堂印存総覧」では、『懷徳堂印存』を実際にめくるようにして各ページを閲覧できます。また『印存』に対応する印の画像、および印面の画像も同時に表示されます。それぞれの拡大表示も可能です。

「印章・印影検索」では、50音別の「釈文」、および印影一覧から、『印存』の当該ページと印を検索できます。

※参考：湯浅邦弘「懷徳堂の小宇宙－懷徳堂印の研究－」（『中国学の十字路』、研文出版、2006年）、
湯浅邦弘「中井竹山の印章」（『懷徳堂センター報2007』、大阪大学大学院文学研究科、2007年）

メイン画面





●懐徳堂書院教授(かいとくしょいんきょうじゅ)

懐徳堂教授の公印。篆刻家前川虚舟の作。石印、烏柿紐である。



●府學教授(ふがくきょうじゅ)

篆刻家曾之唯の作。石印、木方漆塗紐である。



●力學立言(りきがくりつげん)

「力學立言」は入徳門聯の「力学以修己、立言以治人」(学に力めて以て己を修め、言を立てて以て人を治む)に基づく語。このことは、自己修養とそれに基づく社会貢献の重要性を説いたもので、懐徳堂の基本理念を表している。



●天子知名(てんしちめい)

「天子知名」とは、「天皇が名前をご存知である」の意。竹山はこの印を使用せず大切に保管していた。(印譜注記にも「存而不用」とある。)前川虚舟作の陶印。

WEB懐徳堂 <http://kaitokudo.jp/>

懐徳堂印－中井竹山編－



●積善之印(せきぜんのいん)

「積善」は竹山の名。竹山の印は一辺6cm(約二寸)を越える雄渾な印が多いが、これは、その中でも最も大きな印の一つ。篆刻者は当時「印聖」と呼ばれた著名な篆刻家「高芙蓉」(1722～1784)。



●竹山居士(ちくざんこうじ)

「居士」は、学問や徳を備えていながら官に仕えない人のこと。高芙蓉作。



●浪華釣客(なにわちやうきゃく)

「浪華」は大坂のこと。「釣客」は釣り人。「竹山居士」との両面印である。



●子慶氏(しけいし)

「子慶」は竹山の字。混沌社社友の葛子琴(1739～1784)によって作成された印である。石印であるが、上部のみ木製である。



●臣積善(しんせきぜん)

竹山の印の中ではめずらしい「臣」の字を用いている。竹山の書「堯舜之道孝弟而已矣」に押印されており、幕府を意識した丁寧な姿勢が読み取れる印である。



●非艸非木九仞一簣(くさにあらずぎにあらずぎゅうじんいっき)

「非草非木」とは晋の戴凱之撰『竹譜』の語で、竹を指す。「九仞一簣」とは『尚書』旅獒の語で、ここでは「山」を表す。すなわち竹山はこの八文字で「竹山」を表すとした。

●竹山(ちくざん)

篆刻家前川虚舟の作。単郭(厚郭)、周実中虚、点画垂直、印文大小といった技法が使われている。

●髯公同物(ぜんこうどうぶつ)

美髯公とは三国志の関羽のこと。竹山の誕生日が竹酔日(竹を植えるのに良いとされる日)であり、また三国志の英雄関羽の誕生日と同日であることから、竹山は後に同関子の号を用いた。

●竹山(ちくざん)

前川虚舟の作。印文大小の技法が使われている。

●囂々(ごうごう)

「囂囂」は、その地位に満足して心静かなさま。『孟子』尽心上篇に「人知之亦囂囂、人不知亦囂囂(人 之を知るも亦た囂囂たれ、人知らざるも亦た囂囂たれ)」とある。

●雪翁(せつおう)

前川虚舟の作。「雪翁」は竹山の号。

●積善印信(せきぜんいんしん)

「積善」は竹山の名。「印信」とは印のこと。篆刻家葛子琴の作。

●積善 子慶(せきぜん しけい)

前川虚舟の作。半円形と長方形の連印である。

●七十四翁(しちじゅうしおう)

竹山七十四歳の詩作に「七十四翁」とある。『中井竹山詩箋』亥歳元旦の詩「干支感念坐清晨、久在泥塗絳県人、二首六身年已過、又逢二首六身春」に「七十四翁竹山居士書」と記す。

●薜荔窩(へいれいか)

「薜荔窩」は竹山の書齋。「薜荔窩」はまさきの蔓草。なお、竹山の父の薨庵の書齋の名を「此君窩」と称した。

●力學修己立言治人

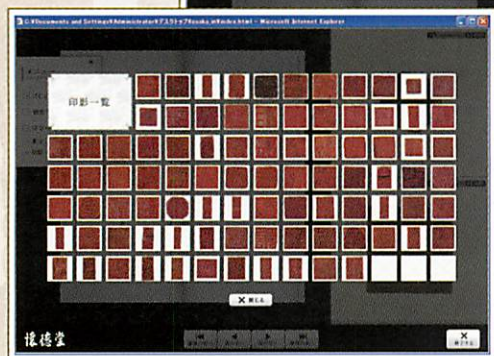
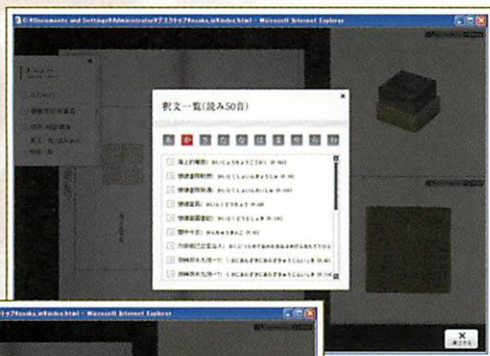
(がくにつとめておのれをおさめげんをたててひとをおさむ)
入徳門聯に基づくことば。周囲が図案郭となっている点に特色がある。印文の意味は「力學立言」を参照。

●成郡中井家藏之記(せいぐんなかいけぞうのき)

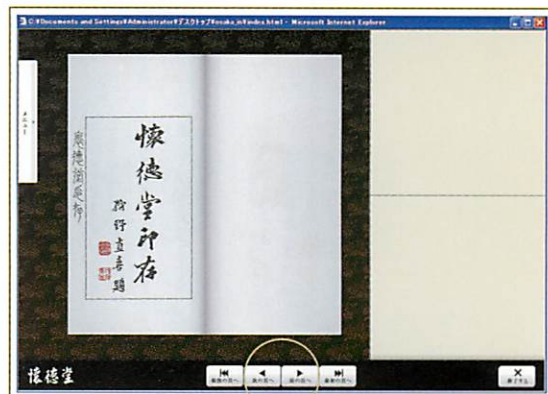
「成郡」は当時、懷徳堂のあった大坂「東成郡」を指す。中井家の蔵書印。

懷徳堂印—中井竹山編—

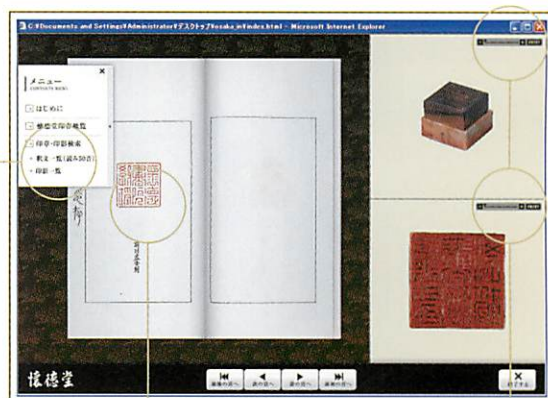
印章・印影検索「釈文一覧」



印章・印影検索「印影一覧」

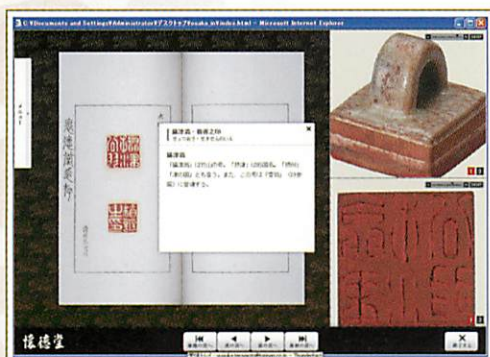


懷徳堂印存総覧

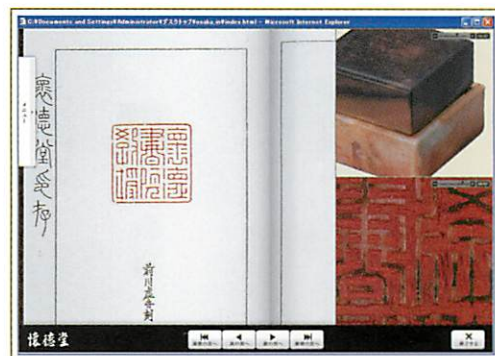
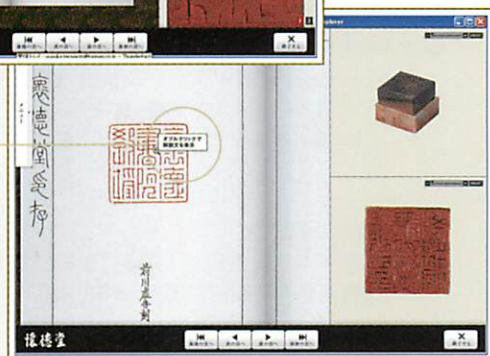


印存画像をクリックすると
拡大表示されます

ツールバー操作で拡大、縮小されます



印存画像を
ダブルクリック
すると解説が
表示されます



WEB懷徳堂からの新たな情報発信

WEB懷徳堂に新たな電子展示のコンテンツが
加わりました。

①懷徳堂印—中井竹山編—

②懷徳堂「左九羅帖」

①では、懷徳堂印の印譜である『懷徳堂印存』の内、
中井竹山の部を電子化し、実際の印の画像もあ
わせて閲覧できるようにしました。②は懷徳堂文庫
の中で最も芸術性の高い資料である本草書『左
九羅帖』を電子化しました。いずれも実際のページ
をめくるようにして閲覧できます。



各コンテンツへ